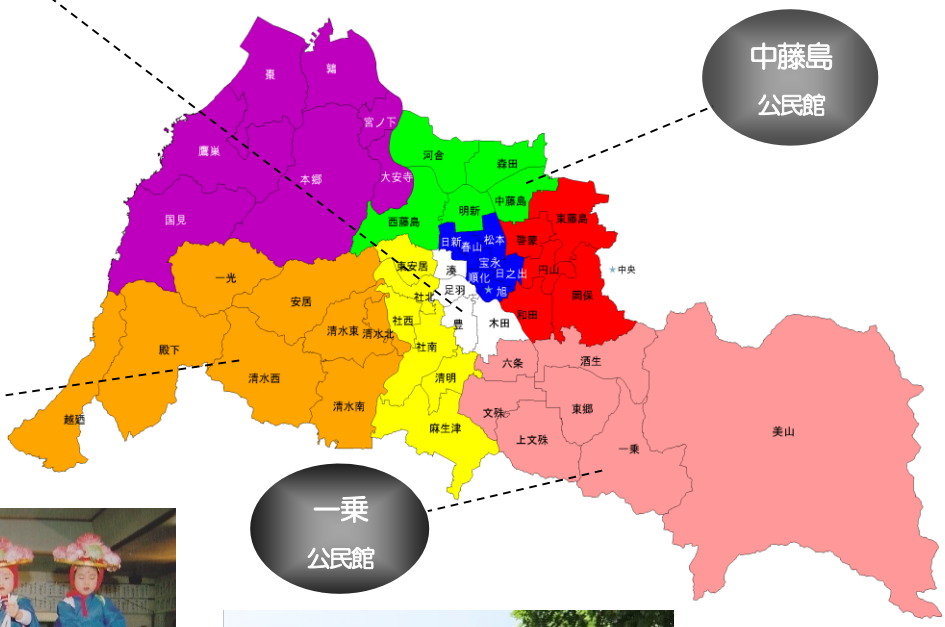
つどう　まなぶ　むすぶ

福井市の公民館



第 12 号

福井市公民館一覧

ブロック	No.	館名	所　在　地	電話番号	掲載号
あたご	1	木　田	木田１丁目 1401	36-0042	6 号
	2	豊	みのり３丁目 106-8	34-0344	12 号
	3	足　羽	足羽２丁目 12-31	35-0041	7 号
	4	湊	学園１丁目 4-8	22-0032	
不死鳥	5	春　山	文京３丁目 11-12	22-0057	2 号
	6	宝　永	松本４丁目 8-4	22-0036	
	7	順　化	大手３丁目 11-1	20-5458	11 号
	8	松　本	文京１丁目 29-1	22-0085	8 号
	9	日之出	四ツ井１丁目 7-24	54-0040	9 号
	10	旭	手寄２丁目 1-1	20-5364	
	11	日　新	文京５丁目 1-8	21-7225	3 号
みなみ	12	清　明	下荒井町 8-414	38-0043	10 号
	13	東安居	飯塚町 6-18	35-9566	4 号
	14	社　南	種池２丁目 206	35-9559	
	15	社　北	若杉４丁目 308	35-9111	創刊号
	16	社　西	久喜津町 65-23	34-7910	2 号
	17	麻生津	浅水三ヶ町 1-93	38-4383	6 号
あずま	18	和　田	御幸４丁目 9-20	22-0038	8 号
	19	円　山	北今泉町 7-12	54-0048	5 号
	20	啓　蒙	開発１丁目 2105	54-0046	10 号
	21	岡　保	河水町 10-13	54-2519	7 号
	22	東藤島	藤島町 48-1-1	54-0039	
九頭龍	23	西藤島	三郎丸１丁目 1410	22-0040	9 号
	24	中藤島	高木町 64-11-4	54-0045	12 号
	25	河　合	川合鷲塚町 9-18	55-0001	
	26	森　田	下森田藤巻町 2	56-0195	創刊号
	27	明　新	灯明寺町 35-1-1	22-7880	4 号
光	28	安　居	本堂町 7-4	37-1234	11 号
	29	一　光	下一光町 6-5	37-0168	5 号
	30	殿　下	風尾町 1-13	97-2377	
	31	越　廼	茱崎町 1-68	89-2182	7 号
	32	清水西	大森町 20-43-1	98-4560	12 号
	33	清水東	三留町 14-11-1	98-4510	8 号
	34	清水南	風巻町 21-17	98-4590	
	35	清水北	ｸﾞﾘｰﾝﾊｲﾂ５丁目 131	98-5477	
川西	36	大安寺	四十谷町 5-20-1	59-1001	3 号
	37	国　見	鮎川町 195-7	88-2004	4 号
	38	鶉	砂子坂町 5-58	83-0433	
	39	棗	石橋町 4-14	85-1495	10 号
	40	鷹　巣	蓑町 14-7	86-1001	
	41	本　郷	荒谷町 19-55	83-0582	6 号
	42	宮ノ下	島山梨子町 22－9	59-1150	11 号
足羽	43	酒　生	荒木新保町 37-9-5	41-2503	9 号
	44	一　乗	西新町 1-31	43-2001	12 号
	45	上文殊	北山町 34-1	41-0516	3 号
	46	文　殊	太田町 4-11-2	38-0550	2 号
	47	六　条	天王町 43-4	41-1001	
	48	東　郷	東郷二ヶ町 6-13-1	41-0306	5 号
	49	美　山	美山町 2-12	90-7111	
	50	中　央	手寄１丁目 4-1	20-5459	創刊号

第１２号　掲載館

公民館名	住　所	電話番号	メールアドレス
豊公民館	〒918－8005 福井市みのり３丁目１０６－８	（０７７６） ３４－０３４４	minori-k@mx1.fctv.ne.jp
中藤島公民館	〒910－0806 福井市高木町６４－１１－４	（０７７６） ５４－００４５	nafuji-k@mx1.fctv.ne.jp
清水西公民館	〒910－3634 福井市大森町２０－４３－１	（０７７６） ９８－４５６０	snishi-k@mx1.fctv.ne.jp
一乗公民館	〒910－2157 福井市西新町１－３１	（０７７６） ４３－２００１	ichijo-k@mx1.fctv.ne.jp

《福井市の公民館に思う》

胸張って頑張ろう

前市公民館連絡協議会会長
前森田公民館館長　　吉村　公司

私は平成22年に森田公民館の館長を務めることになりました。はじめの頃、社会教育法によってできた公民館ですから、全国どこの公民館もだいたいこのようなものだと思っていました。しかし、平成25年に県公民館連合会の会長になり、県内各地の公民館のことを知ったり、東海北陸公民館大会に参加したり、全国代表者会に参加して県外の公民館事情を知ったりするにつれて公民館に対する考え方が随分変わってきました。

運営を民間に委託する指定管理者制をとっているところ、小学校区ごとに公民館を設置しているところもあれば中学校区ごとに設置しているところ、もっと大きな地区に一つしか公民館を置かない自治体もあれば全くないところもあります。自治体によってこうも違うものかと思うほどさまざまです。

嬉しいことに福井市は私たちが胸を張って全国に誇れる体制を維持していただいていますし、体制にふさわしいだけの活動努力を市内どこの公民館でもやっています。小学校区ごとに公民館を設置し、それぞれの公民館に館長と主事(1～3名)が配置されています。また、全公民館に管理人も置かれています。そしてどこの地区でも公民館運営審議会が設置されて、自主的運営、職員人事もまかされています。発足当時の精神と体制を今も維持しているところです。

中央公民館の存在も特徴の一つです。他県では中央公民館といえば、人事、予算などの管理的立場ですが、福井の場合は福井市全体が対象で、規模や予算は大きいけれど、位置づけは地区公民館と同列で市内の館長会や理事会等の事務局を置いていただいたり、講座において地区とコラボしたり、有難い存在であることは間違いありません。

市内の公民館全職員（館長、主事）と、市長や市議会議長、教育委員会幹部、生涯学習室の職員が一堂に会して懇親会を年２回持つ、このようなことは、県内の自治体や他県の県庁所在地でも殆ど見られません。東海・北陸では福井市だけです。

文科省の社会教育課長が福井へ来られたとき、私が、「福井市の公民館長は毎年順番を決めて全員が公民館を訪問してお互いの取組を見せ合うようにしています」と言うと、すぐにメモを取って、「このことは他県の公民館関係の会議に出たときに紹介させてもらいます」と言われました。

思いつくままに「いいな」と思っていたことをいろいろ書きましたが、案外これらのことを知らない人が多いのではないかと思います。私はみなさんに知ってほしいという気持ちで書きました。

今後も福井市の公民館活動の発展を期待しています。

夢あるまち　みのり

― 人と人との繋がりを深める「ふるさとみのりづくり」 ―

豊公民館

１　豊地区の概要

【一里塚跡】

豊地区は、福井市の旧市街地南部に位置し、ほぼ中央に緑豊かな八幡山があり、自然環境に恵まれた地域である。古代から北陸道沿いに発展し、江戸時代は福井城下の玄関口として栄え、世直(よなおり)神社境内には、京、江戸への街道の起点となる一里塚跡が残っている。

フェニックス通りが南北に縦貫し、交通が至便で、JR 北陸本線、福井鉄道福武線、京福バスなどの公共交通が充実し、福井赤十字病院や大型商業施設、工場・事業所などの働く場、整備された住宅街などがあり、住みよい地域である。

また、豊かな歴史と文化を誇っている。足羽山・八幡山の多数の古墳をはじめ、柴田勝家亡き後に北の庄城主となった戦国武将堀秀政公の墓所や、花堂玉の江橋の松尾芭蕉「奥の細道句碑」、県内の古民家を移築した「おさごえ民家園」など、多数の史跡や寺社仏閣、国・県・市指定文化財がある。

平成 30 年 9 月 1 日現在、4,247 世帯、人口 10,490 人となっている。高齢化率が 31.75%で、福井市の人口 1 万人を超える地区のなかで最も高い。

２　ふるさとみのりづくり委員会と「八幡山もえぎ祭り」

(1) ふるさとみのりづくり委員会の活動

住民同士の繋がりを深め、新しく来られた人たちにもふるさとに誇りと愛着をもってもらおうと、昭和 63 年から「ふるさとみのりづくり」運動が始まった。これを具現化するために、各種団体の代表者が集まって、ふるさとみのりづくり委員会が結成された。

現在、自治会連合会、地区社協、体育振興会、教育振興会、壮年会など 25 団体が加入し、委員数 43 名で運営されている。豊公民館を活動拠点に参加団体がそれぞれ役割を担い合って、敬老会や区民体育大会、木田神社子ども相撲大会などの地区事業や、緑豊かな豊地区の特色を活かした「八幡山もえぎ祭り」を実施し、まちづくりと住民相互の交流促進を図っている。

(2) 人と人との繋がりを育む「八幡山もえぎ祭り」

平成元年から始まった「八幡山もえぎ祭り」は、新緑の季節に八幡山のふもとのカルチャーパークで開催される。餅つき大会では、もち米 6 俵（360kg）のよもぎ餅が作られる。よもぎ若葉を使った餅は評判でテントの前に長蛇の列ができる。このほか多数の模擬店が出店し、消防音楽隊ドリル演奏、子ども太鼓、ヨサコイなどが披露される。民踊大会では、住民自らが作詞・作曲した「みのりよいとこ」が踊られ、住民総出で春の到来を終日楽しむ。

【餅つき大会】

【中学生のボランティア】

「八幡山もえぎ祭り」は、ふるさとみのりづくり委員会の各種団体が連携し、300 名以上のスタッフが役割を分担し合って実施される。長い時間をかけての準備や多くの人手と労力が、人材発掘や三世代交流の場となり、人と人との繋がりを育み、深めている。

３　語り継ぐ「平成16年福井豪雨」

(1) 豊地区が泥海になった福井豪雨

平成 16 年 7 月 18 日（日）未明から昼前まで、足羽川流域に集中して猛烈な雨が降った。午後から、春日 1 丁目の足羽川左岸堤防が決壊したため豊地区に濁流が流れ込み、2,416 世帯が床上・床下浸水し、地区の大半が泥海になる甚大な被害を受けた。

復旧にあたっては、豊公民館が水害ボランティアの活動拠点となった。県内外から大勢の人々が応援に駆けつけ、真夏の炎天下、家屋の泥出しなどを頑張っていただいたことに、地区住民はいつまでも感謝している。

【水没した豊地区：福井新聞社提供】

福井豪雨で、豊地区では死者や重傷者の人的被害が一人もなく、全住民が安全な場所に避難でき、安否確認も円滑に行われた。これは、自治会はじめ民生・児童委員、地区社協、消防団などが助け合った成果で、ふるさとみのりづくり委員会の協働のまちづくり活動が、福井豪雨の災害時での「共助」につながったと言える。

(2) 福井豪雨の記憶を風化させないために

豊地区では、福井豪雨の記憶を風化させず、後世に語り継ぐための様々な取組を実施している。

平成26年度は、福井豪雨10周年記念事業を実施した。記録DVDを制作し、福井豪雨について学ぶ豊小学校全校集会を開催した。豊公民館では、防災講演と記録DVD上映会、福井豪雨写真パネル展を開催し、また、木田地区との災害時の相互支援協定を締結した。平成27年度は、日赤合同災害訓練で大規模災害時でのトリアージの診察・治療を体験、炊き出し訓練を行った。平成28年度からは、

【日赤合同災害訓練】

毎年、防災啓発事業「みのりのあかり」で、防災講演会と合わせて、豊公民館での豊小学校児童の飾り付けによるイルミネーションやLED電飾を実施している。

4　豊生涯学習センター

幼児から高齢者まで気軽に公民館で学ぶことを目的に昭和 63 年に立ち上げ、年々内容を充実させ、現在も活発な活動が続けられている。

本年度は、学校や家庭では体験できないことを学ぶ少年教育事業の「タイケン隊」、親と子のふれあいを深める家庭教育事業の「ふれあいサロン」、高齢者教育としての健康長寿事業「豊大学」では、それぞれ、時宜を得た関心の深いテーマで学級を実施している。加えて、ふるさとの歴史を学ぶ福井学基礎事業の「ふるさとみのり塾」、子育て支援事業の「キッズルームみのり」や、はつらつ伝承塾事業の「伝承料理教室」、放課後子ども教室の「将棋教室」と「けん玉教室」などが行われている。

【豊大学：県教育博物館で
豊小学校の資料見学】

また、21グループと1サークルの自主学習グループがあり、公民館利用者が自主的に講座を運営し、地域の文化向上に寄与している。

5　終わりに

昭和 63 年から「ふるさとみのりづくり」運動が始まり、八幡山もえぎ祭りや木田神社子ども相撲大会など、地区を活性化する事業が始められた。以来、連綿と続けられ、今では、豊地区恒例の催事として根付いている。現在、これらの行事が始まった頃に参加した子どもたちが、30 代、40 代となり、運営の重要な担い手となっている。

数年前からは、明倫中学校生徒や豊小学校児童が、ボランティアとして積極的に参加し、よもぎ餅作りをはじめいろいろな場面で活躍している。

ふるさとみのりづくり委員会の活動は、これからも次の世代に受け継がれ、「夢あるまち　みのり」のまちづくりに貢献していくものと期待される。

豊公民館を活動拠点としたふるさとみのりづくり委員会による「ふるさとみのりづくり」運動が始まって30年。まちづくりへの思いが次の世代にうまく受け継がれ、災害時の「共助」にも活かされています。

豊公民館が、学びの場、ふれあいの場として豊生涯学習センターを充実させながら、人と人との繋がりを深めていく大きな役割を担っていることを感じました。

公民館を訪ねて

ひろがる笑顔、つなげる絆、心ふれあう中藤島

中藤島公民館

1 地区の概要

中藤島地区は福井市の北部に位置し、昭和48年の新国道8号線の開通、昭和49年には福井市中央卸売市場の完成、さらに、平成8年に開始された中央市場周辺土地区画整理事業の完了に伴って、大型商業施設や家電量販店、そして、メディア関係の施設が集積し、一大物流基地となっている。これらの進出と相まって急激な人口増加が進み、大小のアパート・マンション等も急増している。

地区の北側には県内最大河川の九頭竜川が流れ、西側にはJR北陸本線、東側には国道8号線が縦断し、地区内がルートとなっている北陸新幹線の工事も2023年の開業に向けて着実に進められ、地区の景観が大きく様変わりしつつある。

舟橋は、北国街道と九頭竜川の要の宿場町として栄え、48艘の渡しは、天下の三舟橋の一つとして謳われた。平成14年に模型の作成、平成15年に再現を行っている。また、広さ1㎢の高柳遺跡は縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡で、九頭竜川流域の暮らしの変遷を知る貴重な資料が数多く出土している。

平成29年4月には公民館が旧中藤小跡地に移転新築され、充実した施設に生まれ変わった。

平成30年9月1日現在、人口は12,393人、世帯数は4,727戸となっている。

2 地域の最大イベント「なかふじ龍神まつり」
～地区住民のふれあいと絆づくりをめざして～

平成7年から、これまでの「夏まつり」を「龍神まつりINなかふじ」として規模を拡大して開催を続けた。

そして平成23年には、検討委員会を立ち上げ、まつり継続の是非や意義・目的等について改めて協議を重ねた。その結果、平成24年度以降も新たな理念で「なかふじ龍神まつり」として継続することとなり、現在に至っている。龍神まつり実行委員会、公民館、自治会連合会が主催し、すべての地区住民が楽しめる恒例行事として定着している。また、近年の課題となっている人口増加に伴う住民相互の絆や連帯意識の希薄化を解消するうえでも大きな役割を担っている。

今年度は、中藤ふれあい公園を会場として7月21日(土)に開催され、各自治会や諸団体など、約40のテントが所狭しと立ち並び、飲物・ゲーム・食品販売など様々な模擬店が出店された。また、特設ステージでは、和太鼓の演奏や、自治会対抗の「早喰いメドレーリレー」などが行われた。その他、子どもたちがテントを回ってゲームを楽しむ「遊びのチャンピオン」、「民踊タイム」、「抽選会」などが行われ、例年にない猛暑の中、大盛況の内に無事終了した。

3 みんなの川を美しく！
～ 九頭竜川クリーン作戦 ～

古来から地域の人々の生活に深くかかわってきた清流「九頭竜川」の魅力を再発見し、みんなが安全に、安心して集える美しい川をめざして、平成26年から毎年4月に流域の環境美化活動を行っている。

中藤島地区では、九頭竜川左岸の福井市九頭竜浄水場からJR北陸線鉄橋までの約4kmに渡り、子どもからお年寄りまで、みんなでゴミ拾いを行っている。

今年度は4月15日（土）に他地区と共に一斉に開催され、約300人の地区民が清掃活動に汗を流し、参加者相互の連携と交流を図ることができた。

４ 中藤島地区社会教育推進大会
～ 住みよいまちづくりをめざして ～

地域の生活環境がめまぐるしく変化し、急激に人口が増えていく中、地域住民の連帯意識の希薄化や地域コミュニティの弱体化が進み、地域づくりの担い手不足などが大きな課題となっている。

当地区では、このような社会状況の変化を見据え、よりよい地域づくり、住みよいまちづくりをめざして毎年1月に「社会教育推進大会」を開催している。昭和55年にスタートして以来今日まで、着実な歩みを続け大きな成果をあげている。地域事業のあり方、地区の防災対策、子どもたちの未来、食育や環境問題など、毎年様々なテーマを設定して、講演会や分科会、パネルディスカッションなどの形式で実践を重ねている。

子どもから高齢者までが一堂に集い学ぶ、まさに地域の生涯学習を支える大きな事業となっている。

５「公民館の歩み」の発刊
～ 地域と共に活動の足跡を刻み続ける ～

新築された公民館の明るいエントランスを入ると、地区民の憩いのスペースである「談話室」の書架にずらりと並んだ「公民館の歩み」が目に飛び込んでくる。

昭和61年の初版から現在に至るまで、その年1年間の活動を冊子にまとめ続けている。内容は、館の年間活動方針、教育事業の概要、地区事業、公民館だより「ふれあいなかふじ」などで、公民館を拠点とした地域の活動をほぼ全て振り返ることができる。

平成23年からは、公民館の活動と地域事業の概要をすべての地区住民に周知し、地域への愛着と地区事業への参加意識を高めてほしいという思いから、自治会加入世帯すべてに配布を行っている。

また、他府県や県内他地域からの移住者が増加しつつある中、中藤島地区の様子や魅力を発信するための大きな手だてにもなるため、今後も発刊を続けていきたいと考えている。

６ 終わりに

中藤島地区は、急激に人口が増加し、商業施設も多く、大変便利な地区に発展した。しかし、その反面、大小のアパート・マンションが建ち、現在、全世帯の約3分の1が自治会未加入であり、地域としての絆の希薄化が進んでいる。

各種事業の改善を試行し、より多くの人を巻き込みたいと取り組んでいるが、その核となるのは、地域の自然遺産である清流「九頭竜川」であると考えている。

これを、まちづくりの核として位置づけ、今後も九頭竜川とリンクした様々な事業を企画・展開していきたいと考えている。

また、新公民館完成というハード面の完備に合わせて、今後は教育事業の更なる活性化を中心とした、ソフト面の充実にも力を注いでいきたいと思う。

めまぐるしく変化しつつある中藤島地区は、人口増加に伴う自治会組織の希薄化や地域の担い手不足などの課題があります。これらの課題に、公民館・関係団体が一丸となって立ち向かい、歴史と伝統を残しつつ新たな取組に挑戦されている様子が伺えます。今後も、新公民館を拠点に、新旧住民の輪が広がり、地域コミュニティが充実・発展されますことを心よりお祈りいたします。

公民館を訪ねて

ほっとするまち　ありがとうが響き合う　清水西

清水西公民館

１ 清水西地区の概要

清水西地区は、清水西小学校区の 16 集落で構成されている。比較的市街地に近い中山間地で、平成 4 年から山内地区と大森地区で志津が丘住宅地の造成が始まった。地区内の賀茂神社には、睦月神事、葵祭り、祇園祭りが伝えられている。特に、睦月神事は、鎌倉時代から引き継がれてきた田楽能舞で、昭和 53 年に国の重要無形民俗文化財に指定された。古来、睦月神事は各集落が持ち回りで行ってきたが、多額の費用や多くの子どもの参加を必要とするため、現在は大森町が 4 年に一度執り行っている。睦月神事は、旧正月の 2 月 14 日に行われてきたが、近年はすぐ後の日曜日に行われている。次回は、来年 2 月 17 日に行われる。新年にあたって天下泰平、国家安穏、五穀豊穣を神に祈願するものである。

歴史をひもとくと、越知山を開山した泰澄が、農耕治水を指導したという話がいくつかの集落に伝わっている。また、滝波町には源義経に関する伝承が、山内町には後醍醐天皇の護良親王が滞在したという伝承が、城山には平家方の斉藤実盛、実員兄弟が山城を築いたという伝承が残っている。

平成 30 年 9 月 1 日現在、人口は 2,994 人、世帯数は 976 戸となっている。

２ 清水西地区を活性化する青年グループの活動

清水西公民館が完成した平成 21 年に、今後の公民館活動をどのように進めていくべきかについて、若者を集めて話し合いを行った。話し合いの結果、子どもが活躍できる活動を多く行おうということになった。そのためには、若者はどのように公民館活動に関わりを持って行くかという話し合いも行われ、青年グループ「しみず西遊輝」が発足した。グループ名は、地区名の「西」と「遊んで楽しみながらまちを輝かせたい」との願いを込めてつけた。「しみず西遊輝」のメンバーは、「今後は、三世代間交流を進めて、地区住民が互いに親しみを持てるようなまちづくりを進めたい」と意欲を燃やしている。

(1) しみず西遊輝が企画する「親子Ｄｅキャンプ」

自然体験活動を通して親子の絆を深めてもらう「親子Ｄｅキャンプ」は、6 月 9 日から 10 日の 1 泊 2 日で行われた。メンバーは、10 数回の企画会議を開き、参加した子どもが活躍でき、楽しい思い出が作れるように準備した。会場は SST らんどで、親子 30 組としみず西遊輝メンバーが 15 名参加した。

〈1 日目の内容〉
①開校式 ②テント設営 ③パン作り ④火おこしとパン焼き ⑤クイズとオリエンテーリング ⑥バーベキューの夕食 ⑦五右衛門風呂で入浴 ⑧キャンプファイヤー ⑨一日のふり返り

〈2 日目の内容〉
①バイキングの朝食 ②鮎のつかみ取り ③鮎の串打ちと焼き ④羽釜で炊飯 ⑤おにぎりと鮎の塩焼きの昼食 ⑥閉校式

参加した子どもは、「テントを立てたのははじめて。金具に角度をつけて打つのが難しかったけど、楽しい」「鮎に串を刺して焼くのがとても楽しかった」と笑顔で話していた。

また、直径 1.5mほどの釜で五右衛門風呂入浴も体験した。「みんなとお風呂に入って楽しかった」「星空がきれいで、露天風呂のようだった」という感想があった。

(2) しみず西遊輝の他の取組

①公民館が進める城山登山道づくりに参加し、雑木を伐採し、えちぜん鉄道から譲り受けた枕木で階段を設置する②公民館ライトアップ事業として、11月にイルミネーションを設置する③毎年3月第1日曜日に行われるそば打ち体験の企画運営を行う④公民館まつりや志津の里まつりでボランティアを行う。

3 第一線を退いた男性グループの活動

「ものづくり匠や」と呼ばれる、第一線を退いた60代から80代の男性グループに、公民館が石窯づくりを依頼した。その目的は3つあり、1つ目は、地産地消事業を進めるために、屋外に石窯を設置すること、2つ目は、第一線を退いた男性が活躍できる場を確保すること、3つ目は、山が荒れてきているので、雑木を伐採し薪として活用し、山を再生することである。平成26年4月から公民館駐車場で高さ約2mの石窯づくりに取り組んだ。4～6年生児童が建設現場を見学に訪れ、こてを使ってレンガを積み上げていく姿がまぶしく見えたのか、「匠やの人たちはかっこよかった。またいろいろなことを教えてほしい」と笑顔で話していた。

他にも、公民館の依頼で、乳児から大人までが使える木のいすづくり、地区内にある独居世帯の家屋の修繕や解体作業、瓦のふき替え作業、石窯を使ったジビエ料理などを請け負っている。また、子どもたちとの交流も続けており、「ものづくり匠や」のメンバーは、「退職した我々が外に出るいい機会にもなっている。過疎化が進む中で修理のような仕事はニーズがあると思うので、地域社会に貢献していきたい」と話している。

4 英語に親しむ活動

海外での生活経験があり、英語の塾を経営している女性を講師に依頼して、英語に親しみ楽しむ活動を行っている。0才からの乳児と母親を対象にした「えいごといっしょ」と、4年生から6年生を対象にした「志津チャレンジ隊」である。楽しく英語とふれあっていってほしいとの願いで行っている。両方とも月に1回のペースで行われている。「えいごといっしょ」では、お母さんの英語に対する苦手意識をなくし、赤ちゃんといっしょに英語で楽しんでもらおうと取り組んでいる。また、「志津チャレンジ隊」は、英語だけを使ってパンや料理をつくり、石窯で焼き上げていくものである。

「えいごといっしょ」のお母さんは、「苦手な英語でも、歌とリズム体操で子どもと楽しく取り組めている」「西地区のお母さんたちと親しくなれて、育児について相談できる」と好評である。また、「志津チャレンジ隊」の子どもは、「料理作りを通していろいろな体験ができうれしい」「石窯料理は家ではできないので楽しい」「縦割り活動なので、小さい子のお世話ができる」という感想が寄せられている。

5 終わりに

清水西地区は、新興住宅地が増え、旧集落との人口比も半々になり、地域のつながりを深める活動の場として公民館が位置している。福井市と合併して12年が経ち、自分たちの公民館として、様々な講座や事業で、種を撒いてきたことがようやく芽を出そうとしている。これからも継続するための工夫として、人と人の絆を大切にしながら新しい視点で活動を見直していきたい。子どもたちには、自然に恵まれた資源を活用して、自ら何を学ぶのかという意欲を培い、体験活動を通して自主性を育み、大人へと成長していってもらいたい。そして、そのような大人が中心となって清水西地区を盛り上げ、みんなが生き甲斐を持って暮らせるすばらしいまちにしていってほしい。

館長さんと主事さんの熱い思いがあり、0才から高齢者までの方々をターゲットにした公民館事業の多さに驚かされました。「多くの方々のニーズに応えるためにはこれくらいの事業がないとだめなんです」と地区住民ファーストの考え方をお持ちで、子どもたちが大人になっても公民館に来てほしいと語られていました。

戦国悠久ロマンの里　一乗谷

―　一乗谷朝倉氏遺跡とともに　―

一乗公民館

１　一乗地区の概要

一乗地区は、JR 福井駅から東南東へ約 12 ㎞に位置し、7 つの町内からなっている。周囲は緑豊かな里山に囲まれ、一乗谷川の清流に沿って南北に細長く伸びた静寂な中山間地である。

地区内に、国の特別史跡・特別名勝・重要文化財の三重指定を受けた一乗谷朝倉氏遺跡がある。その歴史的価値は大変高く、全国から注目されている。特に唐門付近は、春の咲き誇る薄墨桜や糸桜、夏の深緑、秋の色とりどりの紅葉、そして冬の白銀に染まる雪景色など、四季折々、季節感あふれる情景が美しく、訪れる人の心を和ませている。近くにある一乗滝も景色が美しく、夏には涼を求め多くの人が訪れている。

このような歴史と自然に加え、復原町並みや遺跡の整備が進み、観光に訪れる人が増加傾向にある。また福井市のゆるキャラ朝倉ゆめまるが誕生するなど、福井市の主要な観光地の１つとなってきた。平成 16 年 7 月 18 日の福井豪雨では地区全体が壊滅的な被害を受けたが、多くの支援と協力により見事に復興し、平成 21 年 6 月には第 60 回全国植樹祭の会場にもなった。

一方、少子高齢化や過疎化が一段と進み、地区にとって厳しい状況が続いている。平成 30 年 9 月 1 日現在、人口は 789 人、世帯数は 294 戸である。

２　伝統を守りつつ、地区を活性化！

人口減少が年々進んでいる中、特に若い人に「住み続けたい町」と思ってもらえるよう、地区や公民館では仲間づくりや地域づくりをさかんに行っている。また、一乗地区に親しみをもつ人（関係人口）を増やしたいと、1 年を通して様々なまつりやイベントを地区総出で行うなどして、活性化を図っている。

(1) 後世に引き継ぎたいふるさとの伝統行事

地区内には古くから行われている伝統行事がたくさんある。それぞれ、なつかしいふるさとを思い起こす夢のある行事として後世に引き継いでいきたいと、運営方法などを工夫しながら開催している。

その中の「したんじょうまつり」は、鹿俣(かなまた)地区に 400 年以上続く伝統行事で、県の無形民族文化財に指定されている。長年、子どもの手から手へと受け継がれ、今は毎年 5 月のこどもの日に行われている。子どもたちが殿様や家来に扮してイノシシ狩りの行列を再現し、「したんじょう、したんじょう」と大きな声で連呼しながら 1.5 ㎞を練り歩くまつりである。列の最後尾には、マンサクの葉などで作られた体長 3～4m の大きなイノシシの作り物が、大人の男性に担がれて続いていく。

【地区内を練り歩く手作りのイノシシ】

このように、伝統やまつりを継承するため、地区だけでなく一乗地区全域から子どもの参加を募ったり、大人が手助けをしたり、工夫をしながら行っている。

(2) 地域のすばらしさを伝え、関係人口を増やすイベントの開催

一乗地区の自然や歴史を発掘しそれらを地区外の方にも親しんでもらえるよう、地区のメインである一乗谷朝倉氏遺跡などを会場として、１年を通しイベントを開催している。

春は、糸桜まつりや曲水の宴、夏は、朝倉戦国まつりや万灯夜、そして秋には、朝倉トレイルランを行っている。公民館も実施に関わっているが、一乗谷朝倉氏遺跡保存協会が中心となったり、足羽 6 地区と美山地区が連携したりして、多くの地域団体や地区民を巻き込んで開催している。他にも、地区の有志が源氏ボタル鑑賞会を行っている。

【越前朝倉万灯夜　灯りの道】

これらに県内外からたくさんの方が訪れ、一乗地区のよさを楽しんでいる。

３　地域の歴史・文化を学び、人をつなぐ

少子高齢化や人口減少、過疎化現象などが顕著になり、持続可能な地域コミュニティの形成が地区の課題となっている。また、地区の文化や歴史を再発見し、それを人と人の交流や学びにつなげ、楽しい場をつないでいくことが地区の願いである。

そこで、公民館では、住民同士の交流を促し仲間づくりの場となる教育事業を工夫し支援している。

⑴ 地域の子どもを地域で育てる家庭教育

【仲よし田んぼでの稲刈り】

高齢者から児童までの世代間交流の１つとして、小学校と連携した事業を行っている。田植え、稲刈り、収穫祭などの年間を通しての稲作体験や、保護者と地区民が語り合う「一乗っ子を語る会」などである。

地区の高齢者や保護者、そして子どもたちが、共に活動し、地域のよさを学び合い伝え合うことを通して親睦を深めている。

⑵ 地域の環境と食文化を学ぶ「せせらぎ学級」

【一乗谷雪んこ会　かきもちづくり】

地区の婦人たちが日頃の食生活で感じている矛盾に対し、「何とかせんとあかんの！」と、環境と食生活をテーマに学習を重ねている。主な内容は、節電、糖尿病予防の食事、食の安全などで、地域の自然を守り、地域の食材や伝統料理のよさを受け継ぎ広めていく活動につながるものと考え学び合っている。

また、数年前にこの講座から発展した「一乗ふるさと料理クラブ」では、報恩講や法事の精進料理など、地元で受け継ぐ伝承料理を「朝倉膳」として県内外に発信している。他にも「一乗谷雪んこ会」がもち米を使った加工品作りに取り組み、一乗地区の米のおいしさと伝統食を地区外にもアピールしている。

⑶ 一乗の特性を生かし楽しむ郷土学習「清流大学」

この教育事業は、年齢や性別に関係なく、一乗地区について楽しみながら学ぶとともに、親睦を図ることを目的としている。一乗谷朝倉氏遺跡の語り部として活動している地区の方から話を聞いたり、みんなで実際に地区内を歩いたりして、地域の歴史や文化などを発掘するとともに、地域について語り合い、楽しく学んでいる。

⑷ 三峯城跡の歴史、再発見！

【三峯城跡　脇屋義助の石碑】

登り口のある鹿俣地区の住民が「鹿俣町文化と自然を守る会」を立ち上げ、登山道の整備や歴史の学習に意欲的に取り組んでいる。

三峯城は、南北朝時代、平泉寺の僧によって築城され、脇谷義助が合戦の拠点にしたと言われている戦略上の要所であった。その歴史を思い起こすとともに、山頂からの眺望を楽しめるように、三峯城の登山道を整備し、探索ウォークを開催している。

４　終わりに

公民館では、一乗谷朝倉氏遺跡や地区の伝統などを要とし、地区の活性化に関わって歩んでいきたい考えている。そのためにも、この遺跡をどのように活用して地域の活性化につなげるかなど、自治会連合会や各種団体と連携しながら進んでいきたい。

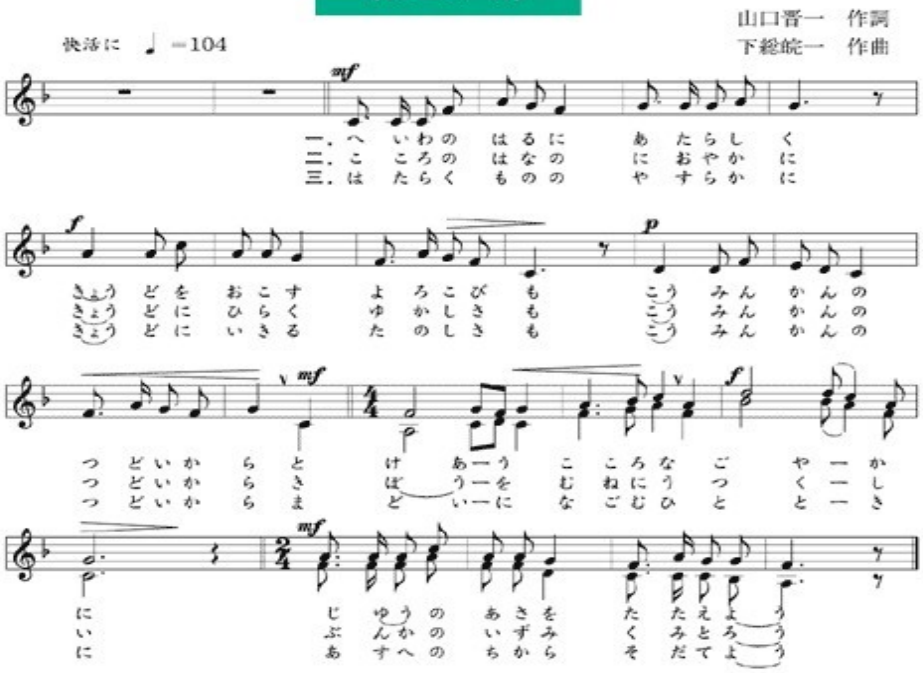
今後も、地区の人々のつながりや思いを尊重し、地区の将来像をみんなで考え、話し合いながら公民館活動を企画し進めていきたい。

一乗谷朝倉氏遺跡の他、地区内のそれぞれの町内の歴史や文化、人々の暮らしや思いをつなぎながら、活動している一乗公民館。温かでなつかしい地区が、学びを通して活性化し、地区内外のたくさんの方々の心のふるさととして、いつまでも残っていくことを願っています。

福井市の花

あじさい

公民館の歌
（自由の朝）



公民館の歌（自由の朝）

山口　晋一　作詞
下総　皖一　作曲

一．平和の春に　あたらしく
郷土を興す　よろこびも
公民館の　つどいから
とけあう心　なごやかに
自由の朝を　たたえよう

二．心の花の　におやかに
郷土にひらく　ゆかしさも
公民館の　つどいから
希望を胸に　美しい
文化の泉　くみとろう

三．働くものの　安らかに
郷土に生きる　たのしさも
公民館の　つどいから
まどいになごむ　ひとときに
明日への力　そだてよう

〈第１２号 編集委員〉

中央公民館運営審議委員	鋸屋恵美子・小西　信子
生涯学習室	吉田　有希
社会教育指導員	稲葉　友昭・嶋田　直美
	田中　政広・河合　恭江
中央公民館	平馬　吉隆・前田誠一郎
	塩﨑めぐみ・半田　実紀

福井市の公民館

〈監修〉福井市生涯学習室
〈発行〉平成３０年１０月
福井市中央公民館
〒910－0858
福井市手寄１丁目４－１
TEL　０７７６－２０－５４５９
FAX　０７７６－２０－１５３８
E-mail ： cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
http://www1.fctv.ne.jp./~cyuou-k